

鬼力博覧会

第6回

国指定重要無形民族文化財の『火祭り』 ～綱火(高岡流、小張松下流)～

綱火は、戦国末期から伝承されてきた詩情あふれる伝統行事です。空中に綱を張り巡らし、その綱を使って人形や舟などを操り、人形芝居を演じます。太鼓や笛のおはやしに合わせて、人形が動きながら綱を伝い、仕掛け花火が数々の演出を添えます。昭和51年に国の重要無形民族文化財に指定されました。

市内には2つの流派(高岡流、小張松下流)があり、それぞれ高岡流綱火更進団、小張松下流綱火保存会によって現代まで伝承されています。

今年はNHK(BSハイビジョン、茨城デジタル放送)でテレビ放送され、また9月2日には、きらくやま世代ふれあいの館で特別上映会も行われ、大きく取り上げられました。



繰り込み(清めの花火)の様子。

※写真は高岡流



—高岡流綱火—

高岡流綱火は、高岡の鎮守愛宕神社に毎年8月23日に繰り込みし、綱火が奉納されます。火難と病難除け・家内安全・五穀豊穡を祈願して行われます。

高岡流綱火の起こりは、鎮守の祭りのときに大樹から赤と黒の蜘蛛が舞い降り、巣を作る様から村人が創作したと伝えられています。

今年は「二六三番叟」、「浦島龍宮入海辺の花園」、「壮絶空中戦」が披露されました。

—小張松下流綱火—

小張松下流綱火は、中世から近世にかけて小張城主であった松下石見守重綱公が考案したものといわれています。戦勝祝いや犠牲者の供養のために陣中で行ったと伝えられています。重綱は鉄砲を扱う火薬師であったともいわれます。

毎年実施される小張愛宕神社の祭礼は、8月23日の夕方に繰り込みし、翌24日に綱火を奉納します。現在は火難除け・五穀豊穡を祈願して奉納します。

今年は「二六三番叟」、「大利根川の舟遊山」、「桃太郎鬼ヶ城の戦い」が披露されました。

